

子どもの健康と病気の予防⑦

— 5歳～11歳の新型コロナウイルスワクチン接種 —

小宅医院 小宅民子

津久見市では3月から5歳～11歳の新型コロナウイルスワクチン接種がはじまりました。5～11歳の本ワクチン接種における効果や副反応に関するデータは我が国には存在せず、諸外国においてもその数は限定的です。国内における5～11歳の新型コロナウイルス感染症の多くは軽症か無症状です。しかし、今年に入り幼稚園、保育園や小学校におけるクラスターも発生し、小児の感染者数も増加しています。新型コロナウイルスワクチン接種においては接種するメリット（期待できること）とデメリット（不安なこと）を本人と保護者が十分理解することが重要です。ワクチン接種の一番のメリットは感染予防と重症化予防です。海外では5～11歳のワクチンの発症予防効果は90%以上と報告されています。また子どもが感染した場合、学校を休むなど日常的な生活や環境が奪われてしまいます。ワクチン接種により長期にわたる子どもの非日常を緩和することが期待されます。一方デメリットは副反応や安全性に対する不安です。主な副反応は注射した部分の

痛み、倦怠感、頭痛、発熱などですが、ほとんどの場合は2～3日で軽快します。重篤な副反応としてはアナフィラキシーショック、心筋炎などですが、頻度はまれです。海外のデータでは5～11歳の小児は16～25歳の人に比べ副反応の頻度は低かったと報告されています。これらを総合的に考慮し、ワクチン接種を検討してください。

日本小児科学会はワクチン接種の考え方として、①子どもを感染症から守るためには、周囲の成人へのワクチン接種が重要。②基礎疾患のある子どもへのワクチン接種により、重症化を防ぐことが期待される。③5～11歳の健康な子どもへのワクチン接種は12歳以上の健康な子どもへのワクチン接種と同様に意義がある。メリットとデメリットを本人と保護者が十分理解し、接種前・中・後のきめ細やかな対応が必要としています。

ワクチン接種に不安や疑問がある場合は、かかりつけ医や健康推進課にご相談ください。

5歳～11歳の新型コロナウイルスワクチン接種 5つのポイント

- 健康な子どもへのワクチン接種はメリットとデメリットを十分に理解する
- 一番のメリットは感染予防と重症化予防
- デメリットは副反応や安全性に対する不安
- 子どもを感染から守るためには周りの成人のワクチン接種が重要
- 重篤な基礎疾患のある子どもへのワクチン接種により重症化を防ぐ